

情報機器を活用した国語科（書写）学習

上柴東小学校（実践者） 腰塚 久美子

（報告者） 川田 早和子

1 単元名 文字の長さを整えて書こう 画の長さ「里」 第3学年

2 単元の目標

- 字形や画の長さの違いに気を付けて、進んで『里』を書こうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 試書と教材文字を比べて自分なりの課題を見つけ、発表することができる。
(表現)
- 自分の課題の解決に向けて、方法を選択し練習する。
(思考・判断)
- 画の長さの違いを理解し、字形を整えて書く。
(知識・理解)

3 情報機器活用の意図

本単元では、画の長さの違いを正しく理解して字形を整えて書くことができるようにするための手立てとして、課題に合った練習用紙を準備し子どもたちが必要に応じて選択できるようにする。また、コンピューターを活用して筆使いの方法をわかりやすく提示すると共に、繰り返し見られるようにして運筆のリズムをつかませていきたい。試書とまとめ書きを比べて自己の進歩を確かめたり、相互評価を取り入れて自分や友達のよさにも気づかせていきたい。

4 実践の概要

(1) 指導計画 2時間扱い

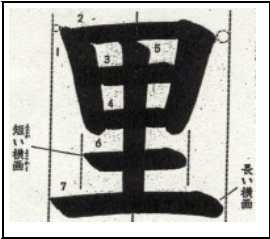
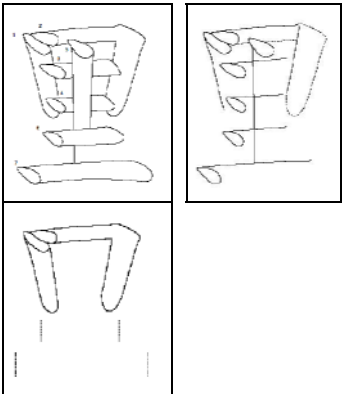
- 画の長さの違いに気を付けて、文字を正しく書くことができる。 1時間（本時）
- 画の長さの違いに気を付けて、字形を整えて清書することができる。 1時間

(2) 本時の目標

- 画の長さに気を付けて進んで練習している。
(関心・意欲・態度)
- 試書と教材文字を比べて自分なりの課題を見つけることができる。
(表現)
- 自分の課題に気づき、その解決に向けて方法を選択して練習する。
(思考・判断)
- 画の長さの違いを理解し、字形を整えて書く。
(知識・理解)

6 展開

学 習 内 容	活動の支援（・）指導の工夫（○）評価（ ）	資 料 等
1 本時の目当てを知る。	・ 基本的な筆使いとして「縦画・横画・はらい・折れ・はね・点」を学習してきたことを確認する。	お手本
画の長さの違いに気 付けて「里」を書こう。		
2 「里」の筆順を確かめ、試書をする。	・ 空書して筆順を確かめる。 ○ 試書と教材文字を比べて、うまく書けた点画	

・ 試書と教材文字を比較する。 3 本時の学習の基準を知り、自分の学習課題をたてる。 ・ 分解文字を操作し基準を考える。 ・ 6画目は短く、7画目は長く書くことを知る。 ・ 自分の学習課題をたてる。	には赤シールを、直したい点画には青シールを貼らせる。  ○ 1画目と2画目の縦画は内側におれること、6画目は短く7画目は長く書くことを、コンピュータを使って範書を見る。	プロジェクター 移動スクリーン ノートパソコン コン CD-ROM (教出)
 4 自分の課題に合わせて練習する。 	・ 試書と学習基準を比べ、自分の課題を見つけさせる。 - 横画の長さの違いを理解している。(知・理) - 自分の課題を見つけることができる。(表現) ・ 練習の仕方、練習用紙の選び方について説明する。 ・ 課題に合った練習方法を選べるよう、机間指導をしながら支援にあたる。 ○ コンピュータで、筆使いの方法をわかりやすく提示すると共に、繰り返し見られるようにして運筆のリズムをつかませたい。 ・ 筆使いや字形などよさを見つけて称賛する。 - 自分の課題に合った方法を選んでいる。 (思・判) - 自分の課題に向けて進んで練習している。 (関・意・態) 	
5 まとめ書きをし、自己評価と相互評価をする。 ・ 次時の予告をする。	・ 試書とまとめ書きを比べて成果を確かめる。 ・ 自分や友だちのよくなったところを認め合うように助言する。	

7 成果と課題

デジタルコンテンツを使用して指導することで、一人一人の課題にあった場面を、何度も繰り返して見ることができ、意欲的に取り組むことができた。言葉ではなかなか理解できないことも映像で見ることで、分かり易く、「あ、そうか!」という発見や、納得のつぶやきも聞かれた。技能的なものの学習において、児童の興味・関心を高めるために、教材提示装置を使って自分の課題を確認したり、試書とまとめ書を比べて、良くなった点を話しあわせるなど、さらに情報機器の活用を考えていきたい。